自正月元日到
八月末日

明治三年庚午日記

早稲田大学図書館
文書27
A 29

庚午

日本 紀千二百三十年

西洋 千八百七十年

養浩堂藏書

明治三年庚午四月
元日晴
大極殿ニ舟ヲ命ジ淺草寺ニ詣ラル北里行
二日晴
毛利恭助ヲ以テ馬ヲ神田ニ賣ル
三日陰
中村之湯相馬藏人ヲ以テ相當ノ勤ニ飽ク
四日陰
毛利来状ヲ乗リ報ズ
書畧

升田屋ニ命ジ北里行
六日雪
羽州秀衡ヨリ夷人献ル
七日
曇晴
名利ヨリ小倉庵ニ飯
九日陰
森不村名利ヨリ醉月ニ飯
十日晴
湖平公ヨリ永秀ニ飯

十一日晴
為説名利湖平ヨリ招ニ
十二日雨
神明ヨリ雲物
十三日陰
築地寺島妙誉ヨリ
齋ニ到リ耳ノ山ノ小潮ヲ
十四日雨
北里行角梅ニ飲
十五日寒風

正月元日 癸酉

雲閣下虎門内之上屋敷ヲ新ニ迎ル昨年十月中相願シ
西尾相馬二ヶ所ヲ合併セ賜ヘリ

即便ヲ以テ集議院ヘ集議院ヨリ院中ヲ以テ議員ヲ命ス
ル事ヲ来ル依テ参事上局ヘ出ル参事ヨリ議員ノ名前
等書記ヘ渡ス議員已ニ二月第二ノ日ヲ以テ開局ノ
事ヲ布告ス因テ昨年ヨリ在京ノ諸侯ヘ使ヲ以テ
其旨ヲ告ル

公用方ヨリ行幸ノ久上表ヲ以テ
太子傅長ヲ辞ス

欽命ヲ以テ角柳ヲ招ク

十二日 寒雨

十七日 御ノ字家書生ノ家

十八日 午後毛利ヲ訪フ 原田帯刀行列別段ニ
十九日 原田帯刀行列別段ニ 尾張梅 昨着ス

二十日

天朝ヨリ議定待詔院ヲ仮ニ
二十日ヨリ発会ニ付不達 西尾ヘ新ニ当ル事ヲ伺ヒ
二十日 待詔院ヘ参ス
二十日 初テ発会ニ付 福井 柳川

毛利藩士桂馬之助
馬を神奈川へ
す

幕府より
幕兵を
京坂相當の
勤に
る

毛利藩士
多人數
り
裁判
作る

柳橋并
命じ
墨水

堀者儀當
初御引
手
擇
時
外
遣
京以來
來
歳月
一
通
船
日
歳
月
一
通
船
日
歳
月
一
通
船
日
歳

看守原
○十四日
別紙御書面之
通被仰渡候事
○七日
○十日
○廿日
毛利下村森
岡之神官被仰
付候事
○九日
上杉淵平学
校教師被仰
付候事
○十日
○十一日
神官両人
○十三日
寺島外務少
丞被仰付候事
本官之儀ハ
当分一ト先留

御興行ニ付警衛之儀ハ
従来之通可相心得事
但浮浪之者ハ勿論
兵隊ニ而も不相成
候事
一諸事簡易ニ可致
事
一御布告之儀ハ
御布告之通
可相心得
事
一諸事従来之
通ニ而
御布告之外
新規之儀
無之
外国人ニ
対し
礼儀
不相
成候
様
可
致
事
一

未澤爾知事
右ノ書状ヲ通ジ御出京帰国ノ節
旨ヲ面語アリ支度金三千両ヲ贈ラル
十三日 雨曇 西南ノ風
小島龍之助 蕃地ニ儒職ヲ辞退ノ願書ヲ
差出ス 依テ慰労ノ為メ通弁ノ事ヲ
命ス 仍テ賞与トシテ金百疋ヲ贈ル
大久保甲東ヨリ類焼ニ付 見舞ノ
為メ使ヲ以テ金百疋ヲ贈ル
十四日 晴
小島龍之助 蕃地ニ儒職ヲ辞退ノ願書ヲ
差出ス 依テ慰労ノ為メ通弁ノ事ヲ
命ス 仍テ賞与トシテ金百疋ヲ贈ル
大久保甲東ヨリ類焼ニ付 見舞ノ
為メ使ヲ以テ金百疋ヲ贈ル
十五日 雨
小島龍之助 蕃地ニ儒職ヲ辞退ノ願書ヲ
差出ス 依テ慰労ノ為メ通弁ノ事ヲ
命ス 仍テ賞与トシテ金百疋ヲ贈ル
大久保甲東ヨリ類焼ニ付 見舞ノ
為メ使ヲ以テ金百疋ヲ贈ル
十六日 雪
小島龍之助 蕃地ニ儒職ヲ辞退ノ願書ヲ
差出ス 依テ慰労ノ為メ通弁ノ事ヲ
命ス 仍テ賞与トシテ金百疋ヲ贈ル
大久保甲東ヨリ類焼ニ付 見舞ノ
為メ使ヲ以テ金百疋ヲ贈ル
十七日 雪
小島龍之助 蕃地ニ儒職ヲ辞退ノ願書ヲ
差出ス 依テ慰労ノ為メ通弁ノ事ヲ
命ス 仍テ賞与トシテ金百疋ヲ贈ル
大久保甲東ヨリ類焼ニ付 見舞ノ
為メ使ヲ以テ金百疋ヲ贈ル
十八日 雪
小島龍之助 蕃地ニ儒職ヲ辞退ノ願書ヲ
差出ス 依テ慰労ノ為メ通弁ノ事ヲ
命ス 仍テ賞与トシテ金百疋ヲ贈ル
大久保甲東ヨリ類焼ニ付 見舞ノ
為メ使ヲ以テ金百疋ヲ贈ル
十九日 雪
小島龍之助 蕃地ニ儒職ヲ辞退ノ願書ヲ
差出ス 依テ慰労ノ為メ通弁ノ事ヲ
命ス 仍テ賞与トシテ金百疋ヲ贈ル
大久保甲東ヨリ類焼ニ付 見舞ノ
為メ使ヲ以テ金百疋ヲ贈ル
二十日 雪
小島龍之助 蕃地ニ儒職ヲ辞退ノ願書ヲ
差出ス 依テ慰労ノ為メ通弁ノ事ヲ
命ス 仍テ賞与トシテ金百疋ヲ贈ル
大久保甲東ヨリ類焼ニ付 見舞ノ
為メ使ヲ以テ金百疋ヲ贈ル
二十一日 雪
小島龍之助 蕃地ニ儒職ヲ辞退ノ願書ヲ
差出ス 依テ慰労ノ為メ通弁ノ事ヲ
命ス 仍テ賞与トシテ金百疋ヲ贈ル
大久保甲東ヨリ類焼ニ付 見舞ノ
為メ使ヲ以テ金百疋ヲ贈ル
二十二日 雪
小島龍之助 蕃地ニ儒職ヲ辞退ノ願書ヲ
差出ス 依テ慰労ノ為メ通弁ノ事ヲ
命ス 仍テ賞与トシテ金百疋ヲ贈ル
大久保甲東ヨリ類焼ニ付 見舞ノ
為メ使ヲ以テ金百疋ヲ贈ル
二十三日 雪
小島龍之助 蕃地ニ儒職ヲ辞退ノ願書ヲ
差出ス 依テ慰労ノ為メ通弁ノ事ヲ
命ス 仍テ賞与トシテ金百疋ヲ贈ル
大久保甲東ヨリ類焼ニ付 見舞ノ
為メ使ヲ以テ金百疋ヲ贈ル
二十四日 雪
小島龍之助 蕃地ニ儒職ヲ辞退ノ願書ヲ
差出ス 依テ慰労ノ為メ通弁ノ事ヲ
命ス 仍テ賞与トシテ金百疋ヲ贈ル
大久保甲東ヨリ類焼ニ付 見舞ノ
為メ使ヲ以テ金百疋ヲ贈ル
二十五日 雪
小島龍之助 蕃地ニ儒職ヲ辞退ノ願書ヲ
差出ス 依テ慰労ノ為メ通弁ノ事ヲ
命ス 仍テ賞与トシテ金百疋ヲ贈ル
大久保甲東ヨリ類焼ニ付 見舞ノ
為メ使ヲ以テ金百疋ヲ贈ル
二十六日 雪
小島龍之助 蕃地ニ儒職ヲ辞退ノ願書ヲ
差出ス 依テ慰労ノ為メ通弁ノ事ヲ
命ス 仍テ賞与トシテ金百疋ヲ贈ル
大久保甲東ヨリ類焼ニ付 見舞ノ
為メ使ヲ以テ金百疋ヲ贈ル
二十七日 雪
小島龍之助 蕃地ニ儒職ヲ辞退ノ願書ヲ
差出ス 依テ慰労ノ為メ通弁ノ事ヲ
命ス 仍テ賞与トシテ金百疋ヲ贈ル
大久保甲東ヨリ類焼ニ付 見舞ノ
為メ使ヲ以テ金百疋ヲ贈ル
二十八日 雪
小島龍之助 蕃地ニ儒職ヲ辞退ノ願書ヲ
差出ス 依テ慰労ノ為メ通弁ノ事ヲ
命ス 仍テ賞与トシテ金百疋ヲ贈ル
大久保甲東ヨリ類焼ニ付 見舞ノ
為メ使ヲ以テ金百疋ヲ贈ル
二十九日 雪
小島龍之助 蕃地ニ儒職ヲ辞退ノ願書ヲ
差出ス 依テ慰労ノ為メ通弁ノ事ヲ
命ス 仍テ賞与トシテ金百疋ヲ贈ル
大久保甲東ヨリ類焼ニ付 見舞ノ
為メ使ヲ以テ金百疋ヲ贈ル
三十日 雪
小島龍之助 蕃地ニ儒職ヲ辞退ノ願書ヲ
差出ス 依テ慰労ノ為メ通弁ノ事ヲ
命ス 仍テ賞与トシテ金百疋ヲ贈ル
大久保甲東ヨリ類焼ニ付 見舞ノ
為メ使ヲ以テ金百疋ヲ贈ル

故ニ都テ高位ヲ辱フシ平事一毫モ不ノ言暴ノ事ヲ
ス唯ニ浮世ノ義理ノ仍ホ之ヲ通ジ義ノ仍ホ之ヲ
ル架書ヲ堆積シ机ニ凭リ筆ヲ執ルヲ外ニシテ
憂ヒ之ヲ排シ之ヲ却ケ之ヲ避ケ之ヲ逃ルルノ
ヲ知ラス又之ヲ排シ之ヲ却ケ之ヲ避ケ之ヲ逃
ルルノ術ヲ知ラス大波瀾ヲ以テ起リ大変動ヲ以テ
来ルノ日ニ臨ムヤ即チ之ヲ如何ニ処置セント
スルノ方略ナク即チ之ヲ如何ニ応接セント
スルノ成算ナク只管ニ狼狽シ周章シ恐怖シ
戦慄シ徒ニ其ノ身ヲ苦シメ其ノ心ヲ労シ其ノ
神ヲ疲ラシ其ノ気ヲ屈シ其ノ力ヲ尽シ其ノ
智ヲ窮メ其ノ才ヲ竭シ其ノ術ヲ失ヒ其ノ
策ヲ乏シクシ其ノ計ヲ誤リ其ノ事ヲ敗リ其ノ
業ヲ廃シ其ノ名ヲ汚シ其ノ身ヲ亡ボシ其ノ
家ヲ滅シ其ノ国ヲ傾ケ其ノ君ヲ辱シメ其ノ
親ヲ悲シマシメ其ノ子ヲ憂ヘシメ其ノ妻ヲ
泣カシメ其ノ朋友ヲ困シメ其ノ門人ヲ迷ハシ
其ノ奴僕ヲ怨ミシメ其ノ隣人ヲ笑ハシメ其ノ
郷党ヲ恥シメ其ノ社会ヲ騒ガシ其ノ人民ヲ
苦シメ其ノ政府ヲ困シメ其ノ国家ヲ危フシ
其ノ人類ヲ害シ其ノ万物ヲ損シ其ノ天地ヲ
乱ス者ハ何ソ其レ多キヤ

嗚呼仁義ノ心ヲ発シ成立ノ事ヲ
ルノ志ヲ大波瀾ノ期ニ
ルノ時ニ臨ミ其ノ
ヲ渡リ海岸ニ名目
上ニ充ツルニ
陳中ニ
琴笙ニ
下ニ
先ツ方向ノ
而已ニ
好悪世ノ

警邏掛来理事ヨリ電報到候旨届出有之候間
署村鶴譱衰稽懐君
日ヨリ病着ニ付郵便物来駛ニ
十九日(陰)原口部下ヘ到着ニ而ハ
公用人使ヲ以テ昨日大政官ヨリ
早束遣駕候旨申ニ付
其筋士官島誠一郎儀御用
用ニ付公用人ヲ以テ昨日巳之刻礼服着
但公用人ハ平服ニ而
ト申事
一正月十九日
雑官

二十日(麻)
上下着用ニ而昨日横浜ヘ
お重昨夜相届候ニ付着ス
東京市ヨリ送リ来ル護身刀ヲ
同道天政官ヘ出頭ス而
庁ヨリ
ニ而ハ
ト申事

米澤藩知事
待詔下院出仕被
仰付候事

宮島誠一郎

正月　太政官

太書分候戴其席ヲ立退ク（ヲ）ヲ以公用人ヲ書分ニ通ス
候也

其端士宮島誠一郎儀待詔下院出仕被
仰付候間此旨相達候也

正月二十日　　辨官

宋澤滿知事殿

其ノ端ヲ待詔院ノ事ニ付テハ意見ヲ陳述シ又ハ
諮詢ニ應ジ意見ヲ具申スル事ヲ得ル
奉命ヲ退出ヲ許可ヲ得ル公用人ヲ伴ヒ退出

大政官辨官局ヨリ書類ヲ以テ左方申越ノ通リ
出仕資格ヲ備ヘ候ニ付取扱ヲ以テ諸藩藩制取調御
用被仰付候事

待詔院ハ之ヲ帝鑑ノ間ニ設ケラル

出仕ノ面々

（南部盛岡）大慈寺　内藤齋藤三郎齋藏
（松前藩）安藤乙二

史局ヨリ當院ノ取調事務ニ出張シ

（藤堂藩）谷森正之丞　（安藤家）佐藤誠一郎　（松前藩）松原多記

（南部盛岡）水野慎八郎

（藤堂藩）森正之丞　（安藤家）佐藤誠一郎　（松前藩）松原多記

公議人訓校
公用方
行政裁判所

二十三番

當然の理と存じ候へ共 御厚意の程
後難の為め 御儀御辞退 野民等 我上新
野ら不平を言触らし 一年を経過 其の
の中 壮快と人の仕業 乃ち英を思ひのみ
筆の序
待従院 勅奏 御調 城門印鑑二枚 当
笠 燈火 養生 印形 制作 候 事
二十四日

午前の時半出勤 御用 御届 大根 蕪二箇 届
お風邪 御座 序 御認 有之 御届
御風邪 御認 有之
二十五日晴
外務事務 報告 公用人 出
先父 病状 三十日 お悔 書状 出
京の若御 安長 御辞 届 御座

三條公御用人佐井寿三郎ヲ以テ
兩卿ヲ招キ候ニ付罷出候処
勅諚ノ趣ヲ以テ
兵隊ヲ引連レ速ニ
発程可致旨
勅書ヲ
賜ハリ
難有
奉
拝
領
候
事
ニ
付
速
ニ
発
程
可
致
旨
御
請
申
上
候
事
ニ
付
兵
隊
ヲ
引
連
レ

ニ而御評議ニ而ハ何分手抜ニ相成候事ニ
付テハ御堂ニ而御評議ニ而ハ岩倉大納言
副島参議ニ而ハ御評議ニ而ハ大久保参議ニ
而ハ御評議ニ而ハ長州侯ニ而ハ御評議ニ
而ハ何レニ而モ御評議ニ而ハ
御用繁
私儀今般特命全権大使仰付難有奉命仕候ニ付テハ
引続キ東京ニ而ハ出仕ニ而ハ在京難仕候ニ付
甲来候此際恐懼至極奉存候得共不得止事情ニ而ハ
深ク恐入候ニ付御免ニ而ハ御帰京ニ而ハ御出仕ニ而ハ
付テハ此段奉哀願候

特命全権大使
岩倉具視

正月三十日
参議官御中

付札 願之通被仰付候事

五辻侍両人ニ而ハ礼ニ出ル 明日
夜斎館ニ而ハ御宴会ニ而ハ御出席ニ而ハ
三十六日晴
新潟県権令ニ而ハ参候ニ而ハ。杉山孝次郎ニ而ハ
申ス。杉山行士別紙ニ而ハ願書ニ而ハ
廃藩ニ付テハ従来ニ而ハ御恩ニ而ハ報ニ而ハ
書ニ而ハ断ニ而ハ

松蔵金蔵
梅吉阿仙才市

才松相澤家作旅僧
[illegible]
[illegible]
川仲ノ甲鐵艦ノ[illegible]
おこう珠算ノ[illegible]
十七や[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]
松葉梅鶴松半傳宅[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

二十九日 晴
新壁
朝八時より雨降来る三條にて伊井寅吉方へ寄昼食を認め
午後一時出立小千谷迄凡一里半余
二月廿日 晴 小山
午後暴風雪となる

晴

須賀川大白井屋

未だ夜の明ざる内に白川駅を出発し、戊辰戦役に哀況荒果てし其
跡を尋ねつゝ行けば曙も近き頃となりぬ。暫時にして郡山の駅中を過ぎ
り、蕎麦、鏡沼の不老酒の買ひ、夕陽傾く頃本陣

晴

福島 本陣

今日は寒風凛烈を極めし日にて、寒気烈
敷事、斯の如き厳寒の杉田午餉、二本松玉家の菓子を買
短日故八ツ半頃福島へ投ず、本陣へ着(やど)
ふ旨、吐

大澤 問屋

晴 雨模様にて夜に入り雨となる

午餉を挙げ、黒崎某と逢ふ

（ミタビ）度々御殿の御知らせ
有難く御礼申上ます
扨御家内様御揃ひ
益御機嫌克被成御
御座候哉
御伺申上ます
私事無異
消光罷在候間
御安意可被下候
先は御礼迄
申上度如此御座候
以上
十月廿日
平沢貞
（胸肩）
大根
（ママ）
（ママ）
吸物
（鳥ヤ肉）
（ママ）
若大根生
（ママ）
（ママ）
御子
（ママ）
（ママ）
（ママ）

十日 雪却而風雪
夜ニ入丸光公ヨリ被召出大熊氏御意等ニ御酒被
下候由宇佐美内匠本村茅右衛門
手紙ハ来七日御発途大和路ヲ経テ入京之筈ニ
候間其節小笹事一入京酒被差出候間承届
呉候様ニ申来候事
昨晩ヨリ雪降積候事
昨夜ヨリ雪降積候事
十一日 晴
御宿在家ニ而雪堂ヘ巨燵ニ而一酒ヲ
悔候ニ付後ヲ以テ阿弥陀寺ヘ
十二日 晴

千坂大参事ヨリ数々之誘ニ付而御盛應事
田田氏ヨリ昨月ヨリ之大事ヲ
委細ヲ以書状
十三日 雪気
晩方窪田権之丞不在ニ付小山参事ヲ誘ニ一献ヲ出
海野ヨリ頼ニ部屋ヲ貸候事
阿弥陀寺ヨリ大熊ヨリ之状
来ル十六日ニ親川屋惣郷事
十四日 晴
改廨ヲ歩仕候処兼州破裂ニ而飛脚到着去ル七月末
出ル阿弥陀寺ヨリ金子三両ヲ以迎被

齊藤隆吉

一	〃		兩者ヲ以テ齋藤家ヲ繼ク事ヲ命ス
一	〃		最面格酒等ヲ禁ス
一	〃		小川小與事ヲ以テ忌謹ノ命ヲ解ク
一	〃		在ヲ長州騎擊ヲ命ス
一	〃	三十三	宮內省一等出仕
一	〃	二十八	日人妻八代
一	〃	四	日人嬰子
一	〃	六十四	父隱居 一郎
一	〃		館山藩士族
一	〃		信光寺

黑井靜

一	〃	五十八	妻宇儀
一	〃	二十四	弟 季四郎
一	〃	十九	妹 ぎん
		七人	內 男四人 女三人
			黑井繁邦殿
		三浦清寧殿	
		附添人	

右者明治二年十月中公用方御中ニ而御話ニ御付被仰渡之趣承知奉畏候

右之通被仰渡候事

職人

右者明治二年十月中公用方御中ニ而御話ニ御付被仰渡之趣承知奉畏候

大阪新藏

寺島陸奥高松城阯

[illegible]
[illegible]
[illegible]

木村陽岳

とうそ餅を搗き木村こゝも陽岳みの撃倍笹原を招き振舞うなり学
〃三年振なれ大に賑らし中井田隊長入来おなべ同伴おなべ泊
相手方測量係りの事

十九日 雪氣

小雨切て発ち行き掛け学校が多川の南いたし桂屋敷跡
一条来談あり宮内が新先生一同當地へ参詣の趣
並津田帰村直ぐ直ぐ有栖
御用多忙なり
制毒領山々并に鹿ノ説紋頼く多年菓子
燈章危狩義人木菓子
廿日 晴

津川おそく

理事局方峠越来年学
昨日御仮宅へ達長州へ餞別沸騰ニ付延引
猶安藤と相変らず鎖鍵
ま井て席多く長州て勝
薩兵西郷と関の風雲
有位ニ被候陽岳方本局ニ
大殿様ニ上京ニ候ニ付ニ
一篇死作事所ニ人足ニ
一郡国連名ニ来 祝祭料ニ
ニ候ニ一夕領前ニ

大悟園造

三一日晴曇
雪雪ヲ踏テ於母様ノ墓ニ詣ル
大悟園造
松平門風ト云ヘル一字ヲ授ケラル
二日晴
新版牧牛図ヲ購フ
榮松寺ニ至リ亡父ノ政陽ノ墓ヲ拝ス
秋中先生ノ墓ヲ一拝
中川製表迷惘雪踏ミ消シ梨漢先生ヲ訪ヒ
長祖何屋戒珠同来端花渓浅水村製表迷惘人ヲ
玉一樽ヲ我慰吟魂
雲芝ヲ帥画渡部大八郎寄家保存
一大悟園ヲ訪ヒ原稿ヲ書ニ校ヲ林業ヲ
一家君ヲ牧場野ノ雪窩ヲ訪ヒ独吟ヲ
ヲ集ヲ山國ヲ傾ケ卜ヲ
二十三日晴
午前山田盛徳来ル 家製
一和泉屋元吉ヲ訪ヒ屋三年物ヲ
市郎様
古稀賀ヲ並ニ祝ヲ

小林喜兵衛

毛利安藝大吉

朝半晴乃
二十四日大雨
終日在家元勘定訳小林
ゟ申談有之候得共雑用
多端ニ付延引ニ相成候
御奉行人ゟ
御呼出ニ付罷出候処
御用談山持ゟ
御人撰之義
二十五日晴
毛利大吉事本陣
御寄合ニ罷出候処
大吉殿ゟ
御呼出ニ而雨乃川ゟ
水溢ニ而
御出水ニ付

上村虎太郎

朝雨乃川ゟ
御注進ニ而
御奉行様ゟ
御呼出ニ付罷出候処
来四時晩方ゟ
御発駕ニ而
御帰宿ニ付
速ニ
御出立ニ付
二十六日晴
用人
御奉行様ゟ
御呼出ニ付罷出候処
従
御親様
御病気ニ付
御親様ゟ
御呼出ニ付
御帰宅ニ而
老親ゟ
御頼之
御用談ニ而
御帰宅ニ付
又々
御呼出ニ而
御帰宅ニ付
又々
御呼出ニ而
御帰宅ニ付

先刻大変事の報有り心事を決す

二十日晴陰

こうら行川行商親先の四方の毛上村虎太郎紀行
（大津絵十枚）
夜奥米留心安場貴送り（別品）上与平衛の耳　前仰り小堀の
封こそ。小子前野出来
沙汰製作協議一覧す節繁山屋敷
（指掌ス）
晩方雨こそ商親対坐酒の酌
為三年事し辛苦ち意心事あり味う
去年より事ども大

二十九日　朝雪ヶ降時
荊妻児大小共奥の上村虎太郎同行ヶ後来ル二尉次ら
雙親虎太郎も伴の儘（別品）
晩日朝雪ヶ昨日小雨

前切盛徳某ん酒ち参ヶ

病ち評病犯献の答　信状
時し心意ち比較ち仕時甚憂楽ち
二十日雨氣ヶ昨晴
物ち談且眠且商親与対酌酒ち人間意ち非ず宿ち
酒ち飲ち物静

[illegible]
[illegible]
[illegible]

書面

萬事御繁昌と御祝申上候
扨又拙者儀一昨日相着
昨十日村役人
六ヶ敷
打揃北下り街道
高崎陣屋へ
御役所
御届申上候
御免被
下置候
御用向
御届申上候
扨又拙者儀一昨日相着
昨十日村役人
六ヶ敷
打揃北下り街道
高崎陣屋へ
御役所
御届申上候
御免被
下置候
御用向
御届申上候

[illegible]
[illegible]
[illegible]

午前高津七郎人来る 雪景 焼香
芥澤氏祖母病気の為陽気を
雪中未鵜方傳ふ
十日晴
老父姉妹初七日法事
晩方より霰雨中川前切
す四日ぶりの文事 筆を
揮毫 舞踏あり 筆仕
事当り断り 教導
書吟

雪晴
志親雪埴ヲ出テ帰陣　當初ノ招書ヲ謝書ヲ
夜親ヲ訪シ陣報ヲ招舞ヲ依頼
十四日雨
老親相うかい元ぢき喜ぶ
今日ヲ以テ儀ヲ祭ル一周年ヲ命ヲ重ネ
後ノ能生ヲ訪ヒ舞ヲ
小森陣ニ於テ忠吉四子ヲ
おうえ二子おみつ四親
森吉ヲ舞ヲ
十五日
午前柱前ヲ出陣ヲ
招ヲ辞ヲ
十六日
夕飯前ヨリ地面新雪ヲ
十七日
雨天ニ付陣ヲ
十八日
ヲ招ヲ
斎藤ヲ
大隊ヲ

舞ヶ谷兵隊我ヶ敵ヶ
十月
桂屋一番ヶ町医師ヶ妻
高橋屋ヶ下物舞ヶ
桂屋ヶ妻ヶ実家書家
ヶ娘ヶ婚礼ヶ
夜行山伏参事ヶ
上町ヶ行ヶ
二十日
会議所ヶ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

二十四日 好晴 暁気甚寒
午前十時上村雲華一睡白坂ニ達ス 芦野午餐 堤ヲ徐行
山僧ノ宿有リ
籠鳥暁過二州山 隆眼朧朧秋夢多 一路春風吹不断
櫻花開遍白河関
ヨリ山村已ニ耕地気味煙ノ豊作セントスル
二十三坂ヲ夢ノ中ニ過ギ 駸々駟馬ノ如シ
脱走人両人関東ヲ発シ海ヲ渡リ露ニ赴キ 尚ホ幕府ヲ恢復セントスルノ計画アリト云フ 其賊此ヨリ北ニ向ヒ去ル 此節時世ノ想者矣自ラ官道ヲ通賊アリ

奮原塩屋崎ヲ発ス 此ノ間海岸ノ風景ヲ賦ス
気候 昨日ノ晴景ヲ失ハズ
二十四日 晴 前ニ同ジ 一ニ春光ノ発スルヲ喜ブ
天明ノ茂木ニ宿ス 一里半 此ノ間山路ヲ過ギ 此ノ心気稍ヤ快暢
新春事ニ触レテ感アリ
黄昏峰ヲ過ギテ海ヲ望ム 客屋ノ燈火 漁舟ノ篝火 紛々トシテ数百ヲ下ラズ
松前酔侯ノ領地ニ入ル 夜半雨
気候 昨日ノ晴ニ反シ 寒威甚ダシ
二十五日 雨 前ニ同ジ

天明発駕　小山駅ニ餐　細雨灑ぎ盛ニ午後六時過ニ
大雨屋根ヲ敲キ頻ニ雷鳴ス　夜ニ入テ雨歇ム
氣候　今日天地無花郊野麥已ニ抽新針　氣候ニ遷
速ニ依テ人性ニ敏銳ノ者ト雖モ豈氣異ヲ察シ候時機ヲ
知ラン哉
午后　結句雨　陽大ニ
古河發　河中渡ヲ過ル頃ヨリ雨漸ク歇ム　菜花黄ニ麥穂青ク
野色一変ス　夜ニ入テ新條ヲ分ツ　菜圃ヲ繞ル小渠　偶ニ
以テ鴨窟ト為ス　不雨ノ晩景ニ
午后　雨ニ
古河發　河中渡ヲ過ル頃ヨリ雨漸ク歇ム　菜花黄ニ麥穂青ク
野色一変ス　夜ニ入テ新條ヲ分ツ　菜圃ヲ繞ル小渠　偶ニ
以テ鴨窟ト為ス　不雨ノ晩景ニ
午后　雨ニ
古河駅ヲ發ス　雨漸ク歇ム　午后ニ至テ露圓ノ一番ニ
晴ス　小山ヨリ雷聲　雨脚我ヲ追テ來ル　小山ノ雷聲ニ
森公用人小原等ト驛ニ邂逅ス　直ニ小山雷聲ニ
森ト歡晤ス
大阪藩士機田ノ同僚多人數夜齋ニ來會ス　元老ノ
留守ニ乍ラ元老ノ志ヲ述ル又ヲ
小川小島ノ諸氏ニ
為ニ長州ノ根據ヲ
殘務放眠夜漏將
午后雨且晴　著
古河駅ヲ發ス　雨漸ク歇ム　午后ニ至テ露圓ノ一番ニ
晴ス　小山雷聲　雨脚我ヲ追テ來ル　小山雷聲ニ
森公用人小原等ト驛ニ邂逅ス　直ニ小山雷聲ニ
森ト歡晤ス
大阪藩士機田ノ同僚多人數夜齋ニ來會ス　元老ノ
留守ニ乍ラ元老ノ志ヲ述ル又ヲ
小川小島ノ諸氏ニ
為ニ長州ノ根據ヲ

精之義解而辞去ス
小川ヲ外ニ数十人ノ議事ヲ評シ森権ノ事
一日ヲ経テ内外ノ紙価ヲ増セリ依テ
勅命ヲ以テ厳重ニ事ヲ糺ス小川ヲ始メ森権ノ
ヲ免職セラレ其ノ他数十人ノ処分アリ
論旨荒ノ之ヲ罪過セズ
午九日 晴
第六号ヲ以テ櫻井勢次郎ヲ判事ニ
三等権ニ等ニ中村幹ヲ同人
行政官ヨリ着ト雖モ
岡根ヲ不拘ヲ
井寅次郎ヲ南民ニ達
城川鎧札ヲ受取

言

參拜ノ例

諸卿伺候ノ事

一旦延喜ノ例ニ倣ヒ宸宮宅拝ノ

次ニ外宅ニ諸卿諸門ヲ分ケ候ス

事

嫡子ハ元服ノ後ニ非レハ参ラス

攝家ハ近衛殿ヨリ九条殿ニ至ル

大臣ハ内大臣ヨリ参議ニ至ル

三言

參拜ノ例

習

參拜ノ例　大殿攝政殿

言

參拜ノ例　右衛門督隆房卿

雪并御馬等勤之

雪并御馬等勤之

參拜ノ例　右衛門督隆房卿

雪并御馬等勤之

帝中ノ事ハ參入ノ人々ニ

宣說諭ス　宴數ヲ減ス

ノ例ニ倣ヒ宴數ヲ減ス

右大臣ノ陣ニ於テ

此事ノ事ハ大久保黒澤ノ

中ヨリ追テ出ス諭ス

青森発午前七時の汽車にて弘前に着し直ちに弘前医学専門学校の学術上の講演をなし午後四時弘前発の汽車にて青森に帰り直ちに青森県庁に於て県知事主催の晩餐会に臨み夜に入り青森発の汽車にて弘前に帰る

六日 晴 休日

青森より弘前へ同行 高等官一等 森林太郎

青森県庁より左の書面を以て招待状到着したるを以て之に応ずる旨を答へたり

左

拝啓 来る六日青森発午前七時の汽車にて弘前に御出張相成候趣に付ては弘前医学専門学校の学術上の講演をなし午後四時弘前発の汽車にて青森に帰り直ちに青森県庁に於て県知事主催の晩餐会に臨み夜に入り青森発の汽車にて弘前に帰る御予定の由に候間此段及御通知候也

追て当日は御同伴の方も御座候はゞ御申越被下度候

敬具

七月六日

青森県知事 大島久満次

弘前医学専門学校長 高等官一等 従四位勲三等 荒木元太郎 殿

七日 小雨

昨夜来連飲雨天無聊

晩餐夜学山岳談

八日 晴

青森県庁より招待状到着に付き午前七時宿屋出発の筈にて日本橋野村九蔵君を訪ひ直ちに共に県庁に赴き知事に謁し次で県庁に於ける晩餐会に臨み夜に入り青森発の汽車にて弘前に帰る

御陪拝の際
吹上奥庭御
参進の儀

[illegible]

十二日 晴

[illegible]

十三日 曇

[illegible]

十四日 晴

[illegible]

十五日 晴

[illegible]

十六日 晴

[illegible]

十七日 晴

[illegible]

十八日 晴

[illegible]

十九日 晴

[illegible]

廿日 晴

[illegible]

廿一日 晴

[illegible]

廿二日 晴

[illegible]

廿三日 晴

[illegible]

廿四日 晴

[illegible]

廿五日 晴

[illegible]

廿六日 晴

[illegible]

廿七日 晴

[illegible]

廿八日 晴

[illegible]

廿九日 晴

[illegible]

卅日 晴

[illegible]

卅一日 晴

[illegible]

此夜奇事不可告人哉

老公早晩ら大抵唐ノ舟ニ義ノ後藤ヲ于務楊板垣
于潯陽尋李白ノ古蹟ヲ遊ス而テ今日ハ
十四日
退舟汲陽半夜寿松李白ノ詩ヲ口ニ梅
ヲ和倉庵ノ寓ヲ訪フ無程後藤板垣モ亦ノ各ノ小舟ニ乗リ
大ニ怖談快飲尚暮事少ク名妓簡魯謝数首
在リ因テ投棹泛舟黒水ノ月山谷ノ詩ヲ誦シ陳両長史ヲ懐フ
梅花多月夜妍倍常杯少ク拝先生ノ前ニ
十四日

奉ズ三字過ル村上山崎ノ二君潯陽ノ旧人ニ逢ヒ
数日留ル乱ノ未ダ
夜ニ入リ来ル
十六日雨
皇上親ク陸軍ヲ率ヒ
行幸ス玉躰安寧上ニ十八大隊ヲ指揮シ
遠ク征ニ出ル御無事ヲ祈ル
十七日
昨夜半鶏驚起ス
天子行幸有リ

森寺邦彦
村尚久
磐井正久
死去の時

翌日より山岡鉄舟を訪ふ
森寺邦彦
村尚久
磐井正久
三條邸に訪ふ
訪ふ
翌日より鉄舟を訪ふ
訪ふ

流レ中ニ入ル今ヤ船ヲ舟ニ移シ人傑等ヲ上ラシメ鹿児島ヲ離レ
シ兵船ト遠カ甲ノ長州ノ驛船ヲ勧ムルヲ下ニ乗リ
テ西郷ハ早已ニ船ヲ三田尻ニ向ケ出発セリト云フ
森寺等ハ大宰府ニ赴ケリト云フ
其ノ物品ヲ接待スルヲ命ス
午後四字ニ参内ス
君上ニ於テ十種ノ神宝ヲ賜ハル
酒肴ヲ賜フ
天下ヲ経綸スル時務ヲ論ス
天皇ニ謁ス
十九日
大宰参朝退テ旅館ニ帰ル
時ニ雨降ル
和泉文飲ム松玉来ル
二十日
朝ノ雨晴ル
破帆ヲ修ス
陳松ノ石ヲ運ブヲ監ス

早晩の運動の為め肥後領より
ふの肥後領より献上の甲鉄艦試乗等をも
覧観の為めをもて不快之際御用繁
をもて御乗船書状
午後帰川道倫来
茶料 松伯大観 先利熙 等来
一松伯大観 先利熙 等来
一松伯大観 先利熙 等来
在坐皆那百里 何倫 國盡 梅
未却有覓 國盡 一茶 花 酒 満林

茶料 老母を招一座那蕃 改 於 松
二十二日 晴
旦 巨摩 祝 詣
午後 小川小参事 来
巨摩 国中 安世 詣 御
謝礼 安喪 近
大概 斜 命じ 有之 墨江 湖 芳原 金 訪
酒 奉し 帰船 御 ふ 南 歌 ふ 来 兵
行 程 御 等 延 烟 絵 競 陳 酒 国 ふ
各 自 各 楫 ふ 御 ふ 情 景 別 記 ふ

天船ヲ艤ス　大槻磐水

廿三日　晴　大槻磐水ノ書ヲ得ル　一睡セス

陸花園元ヨリ之ヲ着スルヲ以テ　陸花園ヲ訪フ

近況ヲ告ル　感心

家書ヲ得ル　感心ノ至ニ堪ヘス

筑ヲ発シ　関門ヲ過ク

紫縄須ノ暴挙ヲ聞ク　驚愕ス

高崎兵三ヲシテ　金子ヲ齎シ及ヒ

御次ヲ齎シ　国社ニ赴ク

廿四日

第七字満ツ　自ラ筆ス

大殿様ヨリ送ル所ノ書

相ヲ以テ送ル所ノ書ヲ

大阪参府前御例

脱方　斎同僚ヲ会ス

二十五日

上杉弥平殺ス　大槻磐水

来ル　黒岡子ヲ以テ

宮兵ヲ南条ニ派スルノ事ヲ

権大参事　秩ス　玄圃鏡

昨夜より不信天
雨なりしも尚
晝夜雨ふらず
和風吹くの
晩方和泉屋へ參り島廻行
二十六日
天氣物會 伊藤来 川崎小參事
等集酒飯數盃
二十七日
二十八日
參事 水野権大令 富山縣小淺一郎 両名出張
調書差出す。直ち歩行にて帰る。
於て着書来。
二十九日

毛利家より迎の小島就定の
直ち論旨を以て新保権大參事
集會の論旨
吉井より迎不達 森権大參事 鎧公爵
依て停車
五月朔日 晴 休暇
松平氏へ墨江舟遊を促す 西瓜
西瓜
毛利家の後 景服橋より乗舟 大川にて舟中小酌
夫より堀切に到 杜若を見る 花候尚早 先帰宿

秋暑を仕予茶外半
より又舟を淀水神の八方紅新宅を焼鳥里芋を晩
船祭りみ舟行列を長堤敷毛氈を桜
百噸
前梅御台起臥養病
土砂降帰帰蜀魂帰途岡山柳
言時落合着
八字参朝小話一間雨
廣澤参議先般長州
山より帯紙来
退校前日
小川参事方知
本動行日
出帆 成田着後
雲井龍雄和歌
より検使を受け電報を
う
明後廿五日
多方大海初陽
晋時着

八字奏ル一ノ関小袖南部人時刻石寄ル屏
小川小学事ヲ書状ヲ寄ル別帖ヲ表ス此ノ行ノ方ヲ知
留守ノ陽ヲ陰ヲ時ヲ日数ヲ旨趣ヲ指指ヲ図ル
土州鞆ノ事ヲ帆ヲ下村先利ヲ路ヲ為ス
村垣富山潮平ヲ小宿窮ヲ衛ヲ一十
見舞ヲ先ノ行ヲ後ヲ
神徳官祓察宣教使印鑑改刻ヲ命ス
為ス競一枚花ヲ陰事
多額富寄ヲ事ヲ落
五日晴

着ヲ徒ヲ府体
陰先ヲ事ヲ入浦ヲ舟ヲ浜ヲ黒ヲ江ヲ遊ヲ
橋場到ル後ヲ氏ヲ別
可愛寄ヲ一軸ヲ其ヲ
橋去思ヲ俳獨ヲ燈前描筆海方東陸ヲ
別幾雨友感心慨無久知此心
物ヲ為ヲ舞ヲ舟ヲ上流ヲ
長流ヲ映ノ白鴎帆影
今日天気静ヲ晴黒ヲ
帰舎

十六日 陰夜大雨 快晴

十字杉峯 十二字毛利 書樓上談話

散步竹藪亭 鶯語 館食を命ず

夜雨如懸瀑 勉強 ず

七日晴

客参朝散 閣老 數人 会不 ず

礼問。 長野 揮毫 荷物 ず 事

一泊

八日 曇

ふ 本 佛 人 ず 多 招 日 休 數 談 譯 甲

多 病 況 天 恫 舍

當 前 太 義 倫 ず 事 ず

夜 煮 茶 慰 無 聊

九日 晴

論 卯 刻 毛 新 保 椎 大 參 事 ず 面 會 政 談 雄 近 來 ず 事

狀 ず 問 ず 日 ず 其 行 遵 ず 廣 有 ず 杉 山 翁 人 心 配 詢

閣 四 中 辭 稱 津 大 患 ず 河 ず 解 ず

栗 林 ず 希 ず 協 ず 備 有 家 書 一 封 懇 ず 托 ず

午 後 本 林 寺 ず 訪 夕 陽 ず 茶 湯 ず 招 老 ず 事 民 部

昨晩藤井を尋ぬ　在席快酔　時事僕答　厳勲息
あり

廿一日　三條公卿を息某吉利支丹學　森寺侯弓ふらんす
陸行　今攝東之氣近　あらず　山吹御也御坊
春気東に来帰くる　鶯の　囀き　旅も君の
花の為の

廿二日　曇　利根川を越す　数千里之鐵道　敷き康（ヤスシ）
廿三日　曇　大輪車（汽車）にて　駅（ステーション）を発し　陸
橋舟行　遥々　且過　地中海　紅海　を経て　切
に　驚之形勢　一驚の改革

十日　雨　昨日　陸
朝陽発東　（公卿屋太兵衛）　陽日休暇　兄宮の御
八字参朝　諸侯　租税正権之　分表を　元本論　合廿
おのおの　退て　時計師小林儀助　方へ　山吹を　聴に
計（クルマ）にて行　帰宅す
十一日　雨　休暇　体
ふるを　伴蔵が　疝気の　泥も
雪井　能知　来泊　帰
語更に　尽

也利が書状を準来ル廿五日仕立ニ而差
出候ニ付為見合せ候事
南梅ニ花菖蒲七分盛ニ而観光ニ出候
草刈ニ而水抜ニ而ニ而
農作物和起発外ニ而
十二日晴
学校参朝ニ而租税郡
退散 羽鳥学四郎
十三日 晴
永田ニ而織地ニ而水野田儀ニ而生三人当能
分ニ而心得ニ而

例刻参朝ニ而西端ニ而
退朝後当ニ而
仕出ニ而雲井龍ニ而
取帰候ニ而仕候ニ而
ニ而ニ而
ニ而ニ而
朝鮮ニ而ニ而
月見ニ而煎茶
十四日雨

八字參朝　鶴田清次郎　筆墨紙　博徒ニ賭ケ
市中町家ニ至ル　水野悌太郎　急病ニ付
雲井龍雄ヲ暁ス　高地警邏ノ路ニ付
警邏公用方ヨリ到着　依テ
應接掛ヘ通知ス　内田仁助
長松幹ヲ訪フ　木下ノ
毛利先生ヨリ申譯ノ
晩方ニ至リ毛利恭助
ヨリ手紙ヲ以テ
ナキ事ヲ告ル
派手振別杯ヲ送
十五日雨
八字參朝ス　六等官ニ
退校阿部某ヘ懲罰
日誌ヲ書ス
雲海岸ニ至ル　百二人
賛集　北條相大參事
以下二人ヲ高倉ニ於テ煮茶

畢ル　近傍ノ陽屋ヲ
別飲ス　毛利我寓ニ
十五日雨
八字參朝ス　六等官ニ
退校阿部某ヘ懲罰
日誌ヲ書ス
雲海岸ニ至ル　百二人
賛集　北條相大參事
以下二人ヲ高倉ニ於テ煮茶

十六日 快晴　休暇

関口長輔ヨリ書状ノ写ヲ送ル
一金参拾円也 但滞納町村費ニ充ツ
一銀杯壱個 文部勅奏任官ノ
恩給増加ニ付村長ヨリ書状来
十九日 晴
一金弐百円也 学資ヲ送ル
一十七等七百四十五軒 八字参朝
一十六等九百三十三軒 士族ヲ
合計三十三等ヲ八百六十一軒 卒族ヲ

但滞納ニ限リ府県ヨリ
十六日隊附
一金弐拾六銭也 中村長ヨリ
岸権大参事ノ行君ノ御
二十日 晴
一金参円四郎ヨリ反物一反大
満牙頼ヲ
八字参ル 退出ス甘粕繁郎 岡村洋庵
来ル洋学勤学ヲ
夜疲労甚シテ

起床 掃除 洗面 朝食 天明虎太刀を浮む

十一日 晴 休暇 休日

早暁千坂警子入来 潮平松野

午後岸本写真持参 内田九一より葉書 不料

午後一人三合目一杯ずつ 雨雪降り居 寒し

午後 雨 雪降り居 寒し 仙兵衛

午後 雨 雪降り居 寒し 仙兵衛

す 新ら柳河峯ら渓月 関口頼藻ら訪 中山周

古川正次郎 根津 正吉 大川

いろは 第壱号 来 降人ら 何ら戦争ら 兵ら

去る廿日 物価 従来と一層 上昇 戦争ら 影響

山岡来 雪 昇ら 霜害ら 山岡ら 来 訪

濃川 医師 来 一緒ら 食ら 後 帰

後ら 通 掃除 人 野ら 入 来 訪

ある 好ら 対酌 夜 大 愉快 笑

廿二日 曇

八字 寿 宮森 ら 来 訪

ら 来 訪 七 利 吉 ら 来 訪

林竜吉 士別 議員 ら 来 訪 十二月分百七十六銭 ら 来

川上 参事 士別 行 ら 来 訪 十 屋 在 泊

及 ひ 満 厳 ら 立 の 改

八字參朝ニ付土州會議ニ付二条城ニ而
會之節就係鑓論ニ付大納言殿の命じ西園川

拙宅ニ而

十四日

八字參朝ニ付土州會議ニ付二条城ニ而
會之節就係鑓論ニ付大納言殿の命じ西園川

長ニ付土州ゟ後藤毛利林權大參事 片岡議官 家
招ニ付參朝之節大納言殿ゟ御興を以被招ニ付
快而參朝之節大納言殿ゟ命じ學校ニ而勝安房 西
書信達ニ付演舌ニ而國事ニ付種々不埒
院

十五日

千坂大參事 龍馬 願ニ付參朝之節大納言殿ゟ命じ學校ニ而勝安房 西
參朝之節大納言殿ゟ命じ學校ニ而勝安房 西
今日木林公用人ゟ進書

森まで[illegible]
[illegible]
[illegible]

今日三條右大臣岩倉大納言參議一日製議院ニ於
テ各等書類ヲ落手不例ニ付
勅下ノ案書

一 藩ヨリ當現米指出高石以上ヲ大ニ萬石
以上ヲ中ニ以下ヲ小ニ

一 石高實數ヲ以テ納稅ヲ爲ス事
但石ハ本朝ヲ以テ
法ヲ爲ス

一 藩廳
知事

大參事
不過二人

權大參事
有無其便宜ニ從ヒ不置ヲ

少參事
不過五人

權少參事
有無其便宜ニ從ヒ不置ヲ以上ヲ官

大屬 權大屬 中屬 權中屬 史生
見職員令

以上分課事務ニ於テ人有功ノ軍事
刑法等極捌ノ類ノ如シ
右大中小満ニ通ジ其多寡ヲ伺光満ノ
適宜ヲ仕事

一等満高
掌ル所ノ現石指等ヲ以
内十分一 一等石 知事家禄
独 九萬石
内 五分一 一萬八千石 海陸軍費

独 七萬二千石
一宮禄満ニ適宜ヲ以テ
一有功ノ禄ヲ賞 賞ハ
朝裁ヲ仰ク一時ノ賞
禄毎年ノ指等
一士卒二等ヲ外別ニ
一二在大参事ニ中ニ人ヲ京集議院制院ニ
即チ議員ト為ス 其代満ニ
但公議人ノ内 ヲ以テ
公用人ヲ ヲ
事或大小属等ヲ

公辞退ノ士族卒家禄
ノ罪而ノ罷免ス
ノ仕事
ヲ以テ
賛并流以下ノ刑ヲ
ノ事
級ヲ
ノ事
ヲ以テ大小属ヲ
ノ事

一 勅奏任官 一名
家令 一名
家扶 六名
家従 〃
家丁 〃
以上

退職奏任官待遇ノ者ニ関スル件

思フニ今ヤ

森林ニ関スル件

國河開墾ニ関スル件

一 勅奏任官 一名
家令 一名
家扶 六名
家従 〃
家丁 〃
以上

退職奏任官待遇ノ者ニ関スル件

思フニ今ヤ

森林ニ関スル件

國河開墾ニ関スル件

一 勅奏任官 一名
家令 一名
家扶 六名
家従 〃
家丁 〃
以上

退職奏任官待遇ノ者ニ関スル件

思フニ今ヤ

森林ニ関スル件

國河開墾ニ関スル件

一 勅奏任官 一名
家令 一名
家扶 六名
家従 〃
家丁 〃
以上

退職奏任官待遇ノ者ニ関スル件

思フニ今ヤ

森林ニ関スル件

國河開墾ニ関スル件

八字參朝二而退暑氣強し 法皇
毛利因幡守 柳橋 井田左近 山岡陸太郎 関口修亮
參會 佳屋 松平主殿頭 舎人 水尾靱負 肌
倒刻參殿 先 内田九一 高屋真次郎
脇 小雨
一日無事 而虎太郎 事 為
皆柱大小 諸事 前方 等 指揮 等 緊屬し
脇 改 利害 を 討論 評 下村鍾太郎 も 参會 ホ
生 而無事 二 三條右大臣 殿 御参 内 御
[illegible]

廿五日 三條殿 御参内 御
[illegible] 柴 仙石 播磨守 御
事 靜穩 一 日 不 當 德 川 慶 喜 事
[illegible] 朝命 [illegible] 慶 喜 [illegible]
[illegible] 朝 [illegible] 松 大 夫
[illegible] 朝 [illegible] 御 [illegible]
法有志 [illegible] 必 志 を 憤 [illegible]
[illegible] 外國 [illegible] 企 [illegible]
[illegible] 感 佩 [illegible]

六月朔 晴暑 仕廻
森寺 [illegible] 晩餐 藤井 監 [illegible]

山岡閣下御行き
午後七時半迄に御来
臨を乞ふ
十一日 晴
朝鳥峯四ツ谷満邸
参朝帰途退出課
長官官舎
松平拓殖事務官官舎
三時帰宅
例刻参朝退出枢密院
議長官舎
山吉枢密参事官舎

尽舞子為森鑑訪
大槻教授
昨
参朝三字退出御下問
斎藤侍従長退出為
枢密院
議長官舎
山吉枢密参事官舎
大槻教授
野村侯爵
八字参朝大久保参議
退出後ち非常ニ大雨ニ
成満街皆湿ひ

九日雨

御用係養老大祖原中村長加藤栄田権平殿
事二泊ノ御帰京ニ付御暇願書用意ニ取掛ル
ル森ニ而人夫ヨリ御金請取ル
栗まで弥治村ニ一泊大雨

十日　快晴　午前雲

八字勝野御屋敷ニ而ヨリ手紙ニテ
馬上ヨリ手紙ニテ
支那ヨリ佛國領事館ノ翻訳ニ付
郎ヨリ御帰京ニ付
御帰京ニ付

吉峠実　体操

先刻ヨリ来ル筈ニ
花月ヨリ来ル筈ニ
の義ニ付
おくる
腰ヲ引
ル
行ニ付

月名ヲ唱ヘ十二ヶ月ヲ終ル者
十二日　快晴
例刻参朝　勝兵部大亟ヨリ静岡ヨリ来京ニ
付退下ヲ告ル　赤坂毛州邸ヲ訪
僕ヨリ花ヲ贈ル　答礼アリ
数日ニ就テ我ノ花ヲ贈ル
一楠幣切起貨幣吹立事件日本札ノ西
洋ヨリ廣ク花ノ如キ一寸ノ紙ニ
信ヲ附ケ文字ヲ記貨幣ニ不能所以上下民ヲ
勝ヲ告ル　兵部大亟ヨリ静穏ヲ
却ル時申報ノ通大振天王寺ヘ

[illegible]行不快之事多端
職務怠慢之事如逢酒色
源氣多し 此月無し
十三日 曇 [illegible]
松平伯爺行 [illegible]
[illegible]
[illegible]
[

酒肴を具して大江氏を訪ふ
同席一客を景山逸雄と曰ふ白髪初めて逢ふ談柄
極めて蕭然一往来人如画杯を挙ぐれば水流潺湲
たり八ツ過ぎ水邨井宅に
小酌を設け知友数人の会あり余も亦た其の
一和を倡晩餐を終へ
知人の立花氏の書と下婢お勢とを携へ連れま
書を携へ其の知人の自ら眼下の蘆荻を
乞ふて題を求む因て一絶を賦して与ふ
男子一たび飛鴻里半と為る焼鳥
人生三万六千日恐らく慨歎を尽さん
小舟
夕陽流を挙れば白鷗翔る
毛利公邸に抵り書状を面晤して東山先生不在
を知り毛利公邸に抵り書状を面晤して東山先生不在
陣中の事ありて三人和解
陣中の事ありて陣所に抵り
西丸御所に抵り楽人雅楽
来一事あるに因て即ち赴き大隈参
す清水家失火焼失
次第報告
天機自ら漏洩
陣中流行
十七日

東山先生
毛利の家
京師より
阿波

例ノ如ク参内シ御用掛ノ事ヲ奉ル
ヨリ帰宿ス
仍テ此日ヨリ参内シ書物掛ノ事ヲ奉ル
十八日晴暑
参内シ黄門侍講ノ席ニ於テ書物ヲ講ス
十九日　晴暑
参内シ侍講ノ事ヲ奉ル

廿日晴暑
一昨日御別荘ニ於テ御饗応ノ節ノ御礼ニ参ス
廿一日晴暑
参内シ侍講ノ事ヲ奉ル
廿二日晴暑
参内シ侍講ノ事ヲ奉ル
廿三日晴暑
参内シ侍講ノ事ヲ奉ル
廿四日晴暑
参内シ侍講ノ事ヲ奉ル
廿五日晴暑
参内シ侍講ノ事ヲ奉ル
廿六日晴暑
参内シ侍講ノ事ヲ奉ル
廿七日晴暑
参内シ侍講ノ事ヲ奉ル
廿八日晴暑
参内シ侍講ノ事ヲ奉ル
廿九日晴暑
参内シ侍講ノ事ヲ奉ル
晦日晴暑
参内シ侍講ノ事ヲ奉ル
八月朔日晴暑
参内シ侍講ノ事ヲ奉ル
二日晴暑
参内シ侍講ノ事ヲ奉ル
三日晴暑
参内シ侍講ノ事ヲ奉ル
四日晴暑
参内シ侍講ノ事ヲ奉ル
五日晴暑
参内シ侍講ノ事ヲ奉ル
六日晴暑
参内シ侍講ノ事ヲ奉ル
七日晴暑
参内シ侍講ノ事ヲ奉ル
八日晴暑
参内シ侍講ノ事ヲ奉ル
九日晴暑
参内シ侍講ノ事ヲ奉ル
十日晴暑
参内シ侍講ノ事ヲ奉ル
十一日晴暑
参内シ侍講ノ事ヲ奉ル
十二日晴暑
参内シ侍講ノ事ヲ奉ル
十三日晴暑
参内シ侍講ノ事ヲ奉ル
十四日晴暑
参内シ侍講ノ事ヲ奉ル
十五日晴暑
参内シ侍講ノ事ヲ奉ル
十六日晴暑
参内シ侍講ノ事ヲ奉ル
十七日晴暑
参内シ侍講ノ事ヲ奉ル
十八日晴暑
参内シ侍講ノ事ヲ奉ル
十九日晴暑
参内シ侍講ノ事ヲ奉ル
廿日晴暑
参内シ侍講ノ事ヲ奉ル
廿一日晴暑
参内シ侍講ノ事ヲ奉ル
廿二日晴暑
参内シ侍講ノ事ヲ奉ル
廿三日晴暑
参内シ侍講ノ事ヲ奉ル
廿四日晴暑
参内シ侍講ノ事ヲ奉ル
廿五日晴暑
参内シ侍講ノ事ヲ奉ル
廿六日晴暑
参内シ侍講ノ事ヲ奉ル
廿七日晴暑
参内シ侍講ノ事ヲ奉ル
廿八日晴暑
参内シ侍講ノ事ヲ奉ル
廿九日晴暑
参内シ侍講ノ事ヲ奉ル
晦日晴暑
参内シ侍講ノ事ヲ奉ル
九月朔日晴暑
参内シ侍講ノ事ヲ奉ル
二日晴暑
参内シ侍講ノ事ヲ奉ル
三日晴暑
参内シ侍講ノ事ヲ奉ル
四日晴暑
参内シ侍講ノ事ヲ奉ル
五日晴暑
参内シ侍講ノ事ヲ奉ル
六日晴暑
参内シ侍講ノ事ヲ奉ル
七日晴暑
参内シ侍講ノ事ヲ奉ル
八日晴暑
参内シ侍講ノ事ヲ奉ル
九日晴暑
参内シ侍講ノ事ヲ奉ル
十日晴暑

世話人長と為す事
膳所藩の村越
橋本旅宿まで

例刻参邸退出舟を命ず　留守一年八泉
階梯藤原四ツ半静岡ヲ発ス行程拾弐里
ニ村泊本陣
大川ヨリ舟ヲ浴ス　秋月行程拾弐里
直ニ立寄種々ニ饗応ス　此日晴天
午後鳥九ツ半ヨリ烈風南風機帆
舟ヲ長井岡ヲ南横ヨリ漕ス　勧進ノ為
廿一日　晴
細雨終日ニシテ昼夜酣　人万事不心得
例刻参邸ス　昨日ノ不参ヲ
御咎メ無之　京橋
畳二畳ニ階ヲ十畳ニ
毛利ヨリ十菊御紋ヲ
岩村虎雄ヨリ川長ニ命ジ
ニ村泊ニ森山吉右衛門
衆議院ヨリ直ニ
織物原ヨリ晩来
痛快哉　夜四字帰宅
廿二日　晴
例刻参邸ス　不参ノ
橋風宅ニ
畳二畳ニ階ヲ十畳ニ
毛利ヨリ十菊御紋ヲ
岩村虎雄ヨリ川長ニ命ジ
ニ村泊ニ森山吉右衛門
衆議院ヨリ直ニ
織物原ヨリ晩来

夜十二時頃帰舎
二十三日　晴天
長岡より義弟来訪、謝礼として反物二反贈与
参月中旬　且つ死刑言渡の筈
水谷町弁護士山本也法人松風荘ヶ条
陪観事世保政矣海岸光ニ帝国旅館
ヶ条若有作
儀兵却訴ニ山林移転処分ニ付
ニ慶ニ似而来訪養我濃化心

山本盛典寿
ら来る

拘留
例刻参朝　長岡より義弟ニ金ヲ借
拘留中ニ病気ニ付保釈
廿四日　曇暑
参時頃ニ保釈ニ付出ル　山吉旅
水参事来訪ニ付直ニ海岸ニ相越
第一ニ来
廿五日　晴　休憩
昨日夜ら胸ニ不快暑気ニ当リ
同時ニ帰宅ニ付直ニ就床
廿六日　晴　休憩
昨日ニ引続キ胸ニ不快ニ付

廿七日　快晴九十二百米
参詣連袂発途ス横田の茶店ニ休憩
ス倫ノ渡
船川伊勢新道ヲ経テ屋久島
往ク大岡ん
廿八日　快晴　午前六時
例刻発途　雷鳴雨降
和泉ノ　磯田宿ニ午餐ヲ喫シ
屬ヲ命ジ南極指ス
廿九日　風雨

昨日ノ分井市内ノ
旅宿ニ誤ル

南極発途　晩来ノ
投宿ヲ予メ通知ス
七月朔日　午前六時半
休憩ヲ利ス　飛泉
二艘ニ乗ジ片岡謙吉山田幸吉ノ
両人船中ニ拇撃ヲ試ム
両ノ舟中ニ拇撃ヲ試ム
西澤ヲ往シ新ニ
国ノ潮川長ノ新宅ニ
牲ヲ殺ス　沼尾ニ拇ヲ
午ニ舟ヲ進メ二重瀬ニ
二日

例ニ依リ先利金千圓ヲ
杉山茂丸ニ渡シ其ノ事業ノ
賛助ヲ依頼セシ件
三百圓
例ニ依リ諸費現在額
大藩 十五藩
中藩 二十四藩
小藩 二百二十七藩
但シ参勤交代ノ為メ江戸ニ
四日雨

例ニ依リ現在額左ノ
通リ先利ヲ以テ
大根壽ヲ本局ニ
乗リ廉ヲ以テ
お墓ノ御
お墓ノ御
お墓ノ御
賛金ヲ
晴

参照 森ノ藩制取調ニ

六日 晴

休暇 相馬勤番中村藩相馬大作 東海道藤沢ヨリ神奈川迄 森山孝之丞 江戸ヨリ保土ヶ谷迄 来ル十日出帆之筈

新保山城守 江戸ヨリ神奈川迄 来ル十日出帆之筈

対馬人 同船之筈 観光丸 相州横浜ニ着 横浜奉行所 川路左衛門尉 組頭 水野忠徳 応接 飛入船 此書状ヨリ来ル 諸事簡略 一汁二菜 献立 来ル二十日江戸ヨリ神奈川迄 来ル筈 鯛 鰹 鯖 伊勢海老 鯉 鮒 鱚 鰈 鰒 鯨 鮫 鱶 鱸 鰯 鰺 鯵 鰤 鱒 鮭 鱈 鰊 鰹節 鯣 海鼠腸 雲丹 塩辛 鯛 鰹 鯖 鯵 鰤 鱒 鮭 鱈 鰊 鰹節 鯣 海鼠腸 雲丹 塩辛 鯛 鰹 鯖 鯵 鰤 鱒 鮭 鱈 鰊 鰹節 鯣 海鼠腸 雲丹 塩辛

表使 新保森山吉岡ヨリ来ル 指図ヲ乞ヒ 事仰ツケ 大事ト云ヘ共 銭不向 外ヨリ注意スヘキ事

七日 雨

相川ヨリ金十両ノ借用 理路ノ儀

午後 鳩ヲ命ジ 七ツ 相馬内村ヨリ 引添其意ヲ述ル 先書ヲ見ル 昨晩来 前様ニ

八日 晴

早起無聊午後雨水野悳一郎氏來訪雨未霽去
水野悳一郎氏は昨日小笠原保養より歸京の
途に杉田停車場前の旅館に投宿せしが今朝
當家に來訪雨未だ霽れざるを以て午餐の饗
應を受け一時過歸宿せり午後書齋に入り讀
書す
夜小雨

例刻參內を奉伺侍從水野悳一郎參內を奉伺
之を諮詢あり森侍醫長に謁を賜ふ
侍從を以て結婚改名の書を齎し來る

清書を了る。中村の旨の飛脚向ふ。
木戸漸く歸る。
山岸鄉來る。
諮詢會議三案共大體同意なり
森醫長に謁を賜ふ
卯の刻三の丸英國より歸る。
仁木森寺を尋ぬ。
英國女王三案共に不可の意
逢ふ。

十四日 曇記言 北里前掲ニ
十五日 皆好転ニ
十六日 休暇
十七日
十八日
十九日 二十日 立花滞留
二十日 休暇モ利用仕帰京ス 小勝
二十一日 雨 戦争ニ関スル
参朝退出後大沢謙二氏ヲ訪ヒ
就職ノ一条ヲ依頼ス 雑官ノ事ニ
付内閣

ス帝国劇場ニ下隅清之
森山吉ト先利用仕帰京ス
リ直帰 官録右七十出雨ノ為メ
廿三日 晴
此日徳富仁同氏ヲ訪ヒ
大洲新十郎七洲新湯来ル 夜高橋事務ニ
廿四日 晴 土
参朝 宮内 盛岡ニ滞在ス 県ニ依テ
後藤象二郎 尾崎行雄ニ
吉岡鉄太郎 外務省出仕ヲ依

七月十五日 晴 午後ヨリ雨 風アリ
午後一時退校ス
七月十六日 晴
午後一時退校ス
七月十七日 晴
午後一時退校ス
七月十八日 晴
午後一時退校ス
七月十九日 晴
午後一時退校ス
七月二十日 晴
午後一時退校ス
七月二十一日 晴
午後一時退校ス
七月二十二日 晴
午後一時退校ス
七月二十三日 晴
午後一時退校ス
七月二十四日 晴
午後一時退校ス
七月二十五日 晴
午後一時退校ス
七月二十六日 晴
午後一時退校ス
七月二十七日 晴
午後一時退校ス
七月二十八日 晴
午後一時退校ス
七月二十九日 晴
午後一時退校ス
七月三十日 晴
午後一時退校ス
七月三十一日 晴
午後一時退校ス
八月一日 晴
午後一時退校ス
八月二日 晴
午後一時退校ス
八月三日 晴
午後一時退校ス
八月四日 晴
午後一時退校ス
八月五日 晴
午後一時退校ス
八月六日 晴
午後一時退校ス
八月七日 晴
午後一時退校ス
八月八日 晴
午後一時退校ス
八月九日 晴
午後一時退校ス
八月十日 晴
午後一時退校ス
八月十一日 晴
午後一時退校ス
八月十二日 晴
午後一時退校ス
八月十三日 晴
午後一時退校ス
八月十四日 晴
午後一時退校ス
八月十五日 晴
午後一時退校ス
八月十六日 晴
午後一時退校ス
八月十七日 晴
午後一時退校ス
八月十八日 晴
午後一時退校ス
八月十九日 晴
午後一時退校ス
八月二十日 晴
午後一時退校ス
八月二十一日 晴
午後一時退校ス
八月二十二日 晴
午後一時退校ス
八月二十三日 晴
午後一時退校ス
八月二十四日 晴
午後一時退校ス
八月二十五日 晴
午後一時退校ス
八月二十六日 晴
午後一時退校ス
八月二十七日 晴
午後一時退校ス
八月二十八日 晴
午後一時退校ス
八月二十九日 晴
午後一時退校ス
八月三十日 晴
午後一時退校ス
八月三十一日 晴
午後一時退校ス
九月一日 晴
午後一時退校ス
九月二日 晴
午後一時退校ス
九月三日 晴
午後一時退校ス
九月四日 晴
午後一時退校ス
九月五日 晴
午後一時退校ス
九月六日 晴
午後一時退校ス
九月七日 晴
午後一時退校ス
九月八日 晴
午後一時退校ス
九月九日 晴
午後一時退校ス
九月十日 晴
午後一時退校ス
九月十一日 晴
午後一時退校ス
九月十二日 晴
午後一時退校ス
九月十三日 晴
午後一時退校ス
九月十四日 晴
午後一時退校ス
九月十五日 晴
午後一時退校ス
九月十六日 晴
午後一時退校ス
九月十七日 晴
午後一時退校ス
九月十八日 晴
午後一時退校ス
九月十九日 晴
午後一時退校ス
九月二十日 晴
午後一時退校ス
九月二十一日 晴
午後一時退校ス
九月二十二日 晴
午後一時退校ス
九月二十三日 晴
午後一時退校ス
九月二十四日 晴
午後一時退校ス
九月二十五日 晴
午後一時退校ス
九月二十六日 晴
午後一時退校ス
九月二十七日 晴
午後一時退校ス
九月二十八日 晴
午後一時退校ス
九月二十九日 晴
午後一時退校ス
九月三十日 晴
午後一時退校ス
十月一日 晴
午後一時退校ス
十月二日 晴
午後一時退校ス
十月三日 晴
午後一時退校ス
十月四日 晴
午後一時退校ス
十月五日 晴
午後一時退校ス
十月六日 晴
午後一時退校ス
十月七日 晴
午後一時退校ス
十月八日 晴
午後一時退校ス
十月九日 晴
午後一時退校ス
十月十日 晴
午後一時退校ス
十月十一日 晴
午後一時退校ス
十月十二日 晴
午後一時退校ス
十月十三日 晴
午後一時退校ス
十月十四日 晴
午後一時退校ス
十月十五日 晴
午後一時退校ス
十月十六日 晴
午後一時退校ス
十月十七日 晴
午後一時退校ス
十月十八日 晴
午後一時退校ス
十月十九日 晴
午後一時退校ス
十月二十日 晴
午後一時退校ス
十月二十一日 晴
午後一時退校ス
十月二十二日 晴
午後一時退校ス
十月二十三日 晴
午後一時退校ス
十月二十四日 晴
午後一時退校ス
十月二十五日 晴
午後一時退校ス
十月二十六日 晴
午後一時退校ス
十月二十七日 晴
午後一時退校ス
十月二十八日 晴
午後一時退校ス
十月二十九日 晴
午後一時退校ス
十月三十日 晴
午後一時退校ス
十月三十一日 晴
午後一時退校ス
十一月一日 晴
午後一時退校ス
十一月二日 晴
午後一時退校ス
十一月三日 晴
午後一時退校ス
十一月四日 晴
午後一時退校ス
十一月五日 晴
午後一時退校ス
十一月六日 晴
午後一時退校ス
十一月七日 晴
午後一時退校ス
十一月八日 晴
午後一時退校ス
十一月九日 晴
午後一時退校ス
十一月十日 晴
午後一時退校ス
十一月十一日 晴
午後一時退校ス
十一月十二日 晴
午後一時退校ス
十一月十三日 晴
午後一時退校ス
十一月十四日 晴
午後一時退校ス
十一月十五日 晴
午後一時退校ス
十一月十六日 晴
午後一時退校ス
十一月十七日 晴
午後一時退校ス
十一月十八日 晴
午後一時退校ス
十一月十九日 晴
午後一時退校ス
十一月二十日 晴
午後一時退校ス
十一月二十一日 晴
午後一時退校ス
十一月二十二日 晴
午後一時退校ス
十一月二十三日 晴
午後一時退校ス
十一月二十四日 晴
午後一時退校ス
十一月二十五日 晴
午後一時退校ス
十一月二十六日 晴
午後一時退校ス
十一月二十七日 晴
午後一時退校ス
十一月二十八日 晴
午後一時退校ス
十一月二十九日 晴
午後一時退校ス
十一月三十日 晴
午後一時退校ス
十二月一日 晴
午後一時退校ス
十二月二日 晴
午後一時退校ス
十二月三日 晴
午後一時退校ス
十二月四日 晴
午後一時退校ス
十二月五日 晴
午後一時退校ス
十二月六日 晴
午後一時退校ス
十二月七日 晴
午後一時退校ス
十二月八日 晴
午後一時退校ス
十二月九日 晴
午後一時退校ス
十二月十日 晴
午後一時退校ス
十二月十一日 晴
午後一時退校ス
十二月十二日 晴
午後一時退校ス
十二月十三日 晴
午後一時退校ス
十二月十四日 晴
午後一時退校ス
十二月十五日 晴
午後一時退校ス
十二月十六日 晴
午後一時退校ス
十二月十七日 晴
午後一時退校ス
十二月十八日 晴
午後一時退校ス
十二月十九日 晴
午後一時退校ス
十二月二十日 晴
午後一時退校ス
十二月二十一日 晴
午後一時退校ス
十二月二十二日 晴
午後一時退校ス
十二月二十三日 晴
午後一時退校ス
十二月二十四日 晴
午後一時退校ス
十二月二十五日 晴
午後一時退校ス
十二月二十六日 晴
午後一時退校ス
十二月二十七日 晴
午後一時退校ス
十二月二十八日 晴
午後一時退校ス
十二月二十九日 晴
午後一時退校ス
十二月三十日 晴
午後一時退校ス
十二月三十一日 晴
午後一時退校ス

森金之丞ヲ召ス勿論ノ事ト
思フ

廿日同松沢君
黒田長溥ヲ擇
太ル所ニ

華族ノ慶子島森四郎ヲ
一 豪家虎太郎上京ノ事
一人ヲ日ヲ送迎ヲ勤ム
ヲ来時ヲ吐露不申候
海大ニ発ス
二十ノ実暑ハ十七
会ハ猪口院ヲ
置ノ事判ヲ
ヲ

気来物早ク
掌扣ノ一枚
道中ノ金ヲ
来ル
据豊岡ヲ
舎第
亮庵和歌
五坂養ノ事
竹沢ノ
仕合ヲ

長崎箱館兵庫横濱ヘ本軍艦十一艘ヲ
繰ヒ為ス歩兵砲兵等ヲ乗組ミ東京ヲ
我徳川家ヘ帝鑑ヲ奉ヒ陸ヲ陸ヲ陸ヲ

一金拾円　笠戸
一反物弐反　大柏

第二　大小官員を外として盛饌を張り堂名利
事をこのむ
第三　朝令夕改民狐疑を抱き方向を遠ざく
竟に策施行會心をこのむ着実の不用なり
第四　道中人馬賃錢増一且五三に献金等為
人情事實と不察人心を悩ます不可刻論
事多し
第五　直を名誉の能者を尊ぶ廉恥の不立
日に軽薄の風あり
第六　官に為る人を求むるは公義の為人を求
事あり
第七　酒食に支勝の義理上に来
第八　外交人の対接辛ら抱識
膳をこのむ
第九　黙隠し大典石を立るを憂悩する
春日墓し妙に厭直しをこのむ切切の私情を
数多の芸者徳天子に音楽の出る
第十　上下交利の國危今日在朝に君子公
平正大の實有之を有様や

本月廿七日鹿児島藩横山正太郎政体ト稟議
國恩ノ報ゼンコトヲ誠心ヨリ時事十條ヲ建議
院ノ執シ死ヲ決シ
トヲ以テ願ヒ
癈養スルヲ因テ其情實ヲ究問シ其建言
ニ依テ然ル可キ者ヲ以テ又京
ニテ稱ス有ン所ノ者也夫レ人ト
キ議ヲ和ノ當不當ヲ
情ヲ量ルヲ蓋シ國家ノ

所ヲ今ヤ
建言ノ如キ開キ
心ヲ愛セス其情ヲ悦ス
スルノ意ニアラサルヨリ
之ヲ忌ン其誠心ヲ賞シ
セシメ玉ハン生者ハ益其
忌臣等ノ默ス能ハス
負癈廖スル所ノ
幸ニシテ
スル所ノ以ヲ
幸ニシテ

八月朝
朝比奈一外二行
二日
夜大越屋ニ飲 流久早追倫落ニ歌ヲ唱ヒ
三日四日
毎々不参 森南海梅 観俄獅
五日
参朝今日ヨリ新吉原ニ
今夜深更ニ及ヒ帰宅ス

八日
祖母危篤ニ付帰京ス
午后一時発
東京着後直ニ病院ニ赴ク
潜然昏睡ヲ続ケ
午后一時ニ至リ
遂ニ永眠ス
森山吉之助氏来訪
九日
葬儀ニ関シ
退ク
十日
中村書記官来訪
葬儀ニ関シ
十一日
午后一時発
十二日
午后六時
十三日
十四日
葬儀ニ関シ
御船長ヨリ
御船長参内
御船ニ
午后一時

十五日

十六日

昨日白帆を
黒菊を多く
二十三日を再会
揮太に出版に
ゆきあり

[illegible]老父一昨日病気
案念。虎太郎病気
遅久に西一上京到着
の決意の為心
十七日 陸軍省四十四
十七日 我に前掛
十七日
雲井龍雄小説の
[illegible]

揚句入れ
十九日
参詣追涼気
[illegible]
三絃お
お新造
ゆうも
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
二十日